

初の都大路で手応え

安城学園 女子13位



「初めての全国大会を楽しんで、笑顔でたすきを渡そう」。当日の朝に交わした約束通り、2年生の5人が初めての大会舞台をさわやかに走り抜けた。

「このメンバーだから頑張れる」と口をそろえる抜群のチームワークと、「走ることが楽しい」との思いが原動力になった。小山愛結選手は「安城学園らしい走りを見せられた」、渡辺柚那選手は「良いリズムでいい走りができた」と手応えを口にす。

全国レベルの選手の走りに刺激を受け、速くなることへのこだわりがさらに強くなった。竹田実紗選手は「坂の下り

で焦ってしまい、フォームが乱れた」とゴール後に涙したが、「この悔しさを来年へのばねにしたい」と気持ちを切り替えた。

磯部早良選手は「他の選手の走るフォームや仕掛けるタイミングなど、勉強になった」と新たな課題を見据え、杉浦花音選手は「もっと強くなれると思う」と意気込む。「皆でまた、この都大路を走ろう」。5人に新たな約束ができた。

(四方つとむ)

13位でゴールする安城学園のアンカー杉浦選手



健闘をたたえ合う安城学園の5人の選手—いずれも京都市のたげびしスタジアム京都で

全国高校駅伝

京都市で20日にあった全国高校駅伝で、県勢は女子(5区間、21・0975キ)で初出場の安城学園(安城市)が13位と健闘した。男子(7区間、42・195キ)で7年連続8回目出場の豊川(豊川市)は28位となり、ともに入賞

(8位まで)には届かなかった。安城学園は、全5区間に2年生が出場。1区は県予選で全国2位のタイムを出した磯部早良(さん)選手が粘り強い走りを見せ、7位でたすきをつないだ。2区竹田実紗選手は坂道でペースをつか

みきれず、14位に後退。3区小山愛結(あゆ)選手が13位に順位を上げた。4区渡辺柚那(ゆずな)選手、5区杉浦花音(かのん)選手が安定した走りで、そのままゴールした。

石田桂監督(43)は「楽しんで走っているのが、表情からも見て取れた」。コーチの米津倍之(ますゆき)さん(77)も「全国の強豪を

相手に、上出来だ」と選手らをたたえた。